

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12540

研究課題名(和文) ベトナム村落の独居高齢者をめぐる規範形成の動態と文化実践の再編：人類学を中心に

研究課題名(英文) The changes of norms and the reconstruction of practices regarding older people living alone in Vietnamese villages: From an anthropological perspective

研究代表者

加藤 敦典 (Kato, Atsufumi)

京都産業大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：60613750

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナムの独居高齢者ケアをめぐる、(1)高齢者の居住ローテーションがみられること、(2)嫁、娘によるケアがとくに重要であること、(3)国家によるケアの供給は限定的で、家族による高年齢者扶養を重視していること、(4)国家は国際的潮流とも連動しつつ共同体ケアの活性化をめざしていること、(5)共同体ケアの基盤となる相互扶助の伝統は脆弱であり、共同体ケアに積極的に関与するのは社会関係資本に恵まれた住民に限られ、独居高齢者にとっては参加しづらいこと、(6)親族内では金銭の授受を含む契約に基づくケア分担がおこなわれており、民間施設入居、家事労働者の雇用を含め、契約によるケア供給が広がりを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人類学的な実地調査によりベトナムの独居高齢者ケアをめぐる規範形成の動態と文化実践の再編の枠組みを把握できたことは、ベトナムにおける高年齢者ケアに対する支援活動にとっても有用な指針を提供することになる。また、日本がベトナムの看護・介護人材を受け入れはじめているなか、本国のケアのありかたの実態、ケア人材の受け入れが本国のケアに与える影響を考えるうえでの重要な資料ともなる。ベトナムにとって喫緊の課題である高年齢者ケアをめぐる動向を明らかにすることは、ベトナム社会をより深く理解する手がかりになるという点においてベトナム地域研究にとっても意義深いものである。

研究成果の概要(英文)：Regarding the care regime for older people living alone in Vietnam, we found out following points: 1) the rotation of older people's living places is widely observed; 2) the roles of daughters and daughters-in-law are critically important; 3) the state plays limited roles in care support for older people while the state emphasizes the responsibility of the family in elderly care; 4) the state also facilitates community care programs; but 5) the tradition of mutual care at the community level is not very strong and people who participate in community care programs are mainly persons who have had strong social capital in their community thus these programs are not very accessible for older people living alone; 6) the care arrangement based on money transfer among family members is widely observed and it is possible that contract-based care arrangement, together with utilizing private welfare facilities and domestic workers, will be prevailed in Vietnamese society.

研究分野：文化人類学

キーワード：高年齢者 ケア ベトナム 東南アジア 居住 介護

## 1. 研究開始当初の背景

ベトナムの村落では都市部や海外への人口流出などを背景に高齢化が進み、独居高齢者の姿も顕在化しつつある。従来のベトナムの村落では子どもたちが高齢者の近くに住んでケアをおこなっていたため高齢者が完全に孤立することはなかった。しかし、最近では気軽に頼ることができる家族・親族が近くにいないケースもみられるようになってきている。

ベトナムにおける高齢者ケアの主な担い手は家族である。ベトナムの家族については歴史学、文化人類学、家族社会学、人口学などの専門家による豊富な研究蓄積がある。しかし、これまでの議論はベトナムの家族制度を典型的に分析することに重点を置く傾向があり、高齢者の居住形態の選択や、家族による高齢者ケアをめぐる規範形成と文化的実践の動態を分析するための理論的枠組みを十分に提示できていなかった。

## 2. 研究の目的

従来、ベトナムの主要民族であるキン族の家族制度については、儒教的理念のもと、長男が親を扶養することが規範であると理解されてきた。他方、末子が結婚後も親と同居するケースも多くみられ、一種の末子相続制度が存在するとの議論もある。また、婚出した娘が積極的に親の扶養に関与するケースも多い。このようにベトナムの家族制度については相反する規範が並存する状況がみられる。これまでベトナム地域研究者はこのような家族ケアの実態を明確に描写することができず、そのため、高齢者が誰と住むか、誰が扶養するかについての規範や実際の取り組みについても説得力のある説明をすることが難しかった。

このようなベトナムの高齢者ケアをめぐる規範や実践についての包括的な説明としては「相反する複数の規範やルールが並存するなか、それらを状況に応じて使い分けたり、複数のルールに巻き込まれたりしながら、規範と実践の辻つまをあわせつつ個別のケースに対処している」というものになると考えられる。問題はこれを説得力をもった理論的な説明の枠組みとして提示することである。つまり、ベトナムの高齢者ケアや居住形態の選択の実態を静態的に説明するのではなく、かつ、融通無碍な生存戦略として描くのもないかたちで分析するにはどのような理論的枠組みを構築すればよいか。これが本研究の核心をなす問いである。

## 3. 研究の方法

上記の問題を明らかにするために、本研究では「規範形成の動態」と「文化実践の再編」という観点を提示し、その有効性を事例分析を通して検証していくこととした。その際、家族によるケアの供給だけでなく、国家、共同体、市場によるケアの供給のありかたについても分析的に検討することとした。

具体的には、(1) 高齢者ケアに関する法制度や政策言説のなかにみられる高齢者扶養に関する規範の変遷、(2) 家族による高齢者扶養についての歴史人類学的な文献調査、(3) 独居高齢者を含む高齢者の扶養に関する家族規範および文化的実践の再編についてのフィールド調査をおこなうこととした。フィールド・ワークでは、おもに高齢者の居住形態の選択と家屋や祭祀との関係、家族のライフ・サイクル、娘の地位、施設ケアやコミュニティ・ケアの実態調査に焦点をあてることとした。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現地調査は2019年度におこなったベトナム中部のハティン省での合同調査と、2022年度に実施したハティン省や中南部のビンディン省での個別調査に限られることとなった。

活動がオンラインに限定されていた時期には、他の研究プロジェクトの研究者との連携研究会などを多数開催することにより、問題意識を多角的に検討することを重視した。

## 4. 研究成果

### (1) 家族によるケアの供給

ベトナムのいくつかの地域での聞き取り調査を通して、家族によるサポートが高齢者ケアにおけるもっとも重要な要素になっていることが再確認できた。

とりわけ興味深い点は、高齢者たちが複数の子どもたちの家のあいだをローテーションしながら生活しているケースが多々みられたことだった。これは、必ずしも高齢者が「たらい回し」にされているということではなく、むしろ高齢者自身がタイミングを見計らいながら複数の居場所を往来したり、ときには自宅に一人で暮らしたりするようにしているのである。その背景にある動機や計算がどのようなものであるかは、本研究からは十分にはわからなかった。高齢者がそれまで「自己犠牲」として子どもたちに与えてきたものを返してもらおうプロセスという認識が広く共有されているようではあった。このように、家族による高齢者ケアあるいは高齢者自身に

よるセルフ・ケアは、単一の家庭内でのケアというよりは、より広範囲な親密圏のなかでおこなわれている。ただし、そのような慣習が可能になるのは、それを可能にする条件がある場合に限られる。少なくともそこに加わる複数の子どもや近い親族がいなければならない。そういった多子的な環境は特殊な歴史人口学的な条件のもとでのみ可能だったわけで、今後、少子高齢化が加速するベトナムにおいて、同様の慣習が継続されるとは考えられない。家族ケアのありかたも大きく変化していくものと考えられる。

家族によるケアにおける女性の役割については、息子の妻(嫁)によるケア負担が顕著に見られるケースが調査からも明らかになったいっぽう、(婚出した)娘たちによるケアの重要性が高い点も明らかになった。ただし、嫁と娘のどちらにケアの負担が多くかかるかについては、ベトナムにおける全国的な調査結果なども参考にしたもの十分な結論を得るには至らなかった。男性によるケアはおもに行政手続の支援、病院の送り迎えなどが中心で、欧米や日本などでもみられるいわゆる「息子介護」の特徴がベトナム社会にもみられることが確認できた。なお、前近代における「孝」をめぐる説話集を分析すると、妻子よりも自分の親を大事にせよとの説話が散見され、当時のベトナム社会において、すでに愛情家族としての核家族が一般化しており、世代をまたいだケアについては実現されていない理想・理念として強調する必要があったこともあきらかになった。

### (2) 国家によるケアの供給

国家によるケアの供給については、依然として限定的であることが確認できた。高齢者法(2009)の制定以降、困窮した高齢者に対する社会保障制度が少しずつ構築されつつあるものの、独居者を含む困窮高齢者の自立した生活を保障するには不十分な状態である。本研究のおもな調査地であるベトナム中部のハティン省で公営の革命功労者養護施設の調査をおこなった結果、革命功労者以外にも、家族でケアを担うことができないとされた中高年の身体障害者なども入居していることがあきらかになり、公営施設が地域の広汎なケア・ニーズへの対応を期待されていることが明らかになった。ただし、これらの公営セクターが施設入居のニーズを十分に満たしている状況ではないようであった。また、一般的な高齢者やその家族がこういった公営施設への入居をあまり選択肢として念頭に置いていないことも確認できた。

そのほか、高齢者法にみられる家族による扶養の権利と義務を定めた条文についても多くの検討をおこなった。この条文については、扶養の義務と相続の権利の關係に言及するものであるという解釈が可能であるいっぽう、家族ケアについての一般的な道徳規範を説くものであるとの解釈も可能であり、さらなる法(社会)学的な分析が必要であることが確認された。また、高齢者法の条文には高齢者の「自立」(経済的自立、移動の自由など)を定めたものがあり、これらの条文は高齢者の自立支援(アクティブ・エイジング)を促進するものであるとともに、別の解釈によれば、グローバルに展開する法制度支援・開発支援の脈絡における社会主義法と自由主義法の相克のもと、高齢者を自立した経済主体としたい自由主義的な観点が導入された結果とみるべきとの議論もあった。新興国の高齢者ケア・レジームを分析するうえで、グローバル経済の視点を考慮する必要があることが確認された。

### (3) 共同体によるケアの供給

ベトナムの村落共同体にコミュニティ・ケアの基盤となるような相互ケアの「伝統」と呼べるような慣習があるとは言えないことが確認された。現在のベトナム政府は、国家によるケアの供給が十分にできない状況のなか、国際援助団体の支援も受けつつ、地域住民に対するケアの供給主体となりうるような村落共同体の「復活」(という名の再構築)をめざし活動を展開していることが見えてきた。この研究では「多世代相互扶助クラブ」運動に注目した。このプログラムは、地域健康増進、小規模金融プログラム、訪問ボランティア制度などを通じた、高齢者の自立とコミュニティによる世代間相互扶助の促進をめざすものである。しかし、この活動に積極的に参加し、また活動の恩恵を受ける住民たち(おもに女性たち)は、もともと地域の自治活動に積極的に参加し社会関係資本を十分にもっている人々である場合がおおく、従来から、むらのなかでのつながりが希薄な人たちや多くの独居高齢者たちは、結局、こういったサービスからもこぼれおちる傾向があることが見えてきた。

分担者の比留間洋一と連携研究者のグエン・ティ・ビック・チャンがベトナム中南部のビンディン省の村落でおこなった調査では、独身高齢女性がコミュニティ内の親族ネットワークの連携によって手厚いサポートを受けることができている事例が確認された。しかし、こういったコミュニティ内のケアがコンスタントに実現するためには、外部からの政策的な介入をとまなうコミュニティ・ケアの制度化が必要かもしれない。他方で、そのような制度化が望ましい結果をもらすかどうかについては慎重な検討が必要である。たとえば、現在のベトナムの村落では地域の診療所の看護師が「ヤミ」で自分の居住地の人々の往診や在宅看護を引き受けている場合がある。このような訪問看護は「ヤミ」だからこそ柔軟かつ相応のサービスを提供できている側面も

ある。余語トシヒロらが指摘するように、福祉国家制度が整わないなかでケアのニーズが増加するアジアにおいては、ケアの充実をめざすうえでの制度論的なアプローチにはおのずと限界がある。むしろ、公的なかたちで制度化されたケアの充実をめざすとともに、親密な関係のなかでの金銭的なやりとりも含む柔軟なケア・アレンジメントに注目していくことが重要かもしれない。実際、東南アジアの華人社会では、親子間でお金を払って孫のケアを委託するような実践がためらいなくおこなわれているケースもあり、必ずしも家族・親密圏のケアとお金のやりとりをともなう契約的なケアが対立せずと並存しうることが明らかになってきている。

ただし、こういったかたちで「つながり」からこぼれ落ちていることが、必ずしも高齢者の生活にとって不幸なこととは限らないという点も重要な論点として確認することができた。本研究の成果を総括した2022年12月のワークショップの参加者たちからは、「離接 (disjunction)」という概念を用いて、「つながり」と「切断」が日常生活のなかでたえず繰り返されている状況を分析し、それが意味する人々の生活の再構築を可能にするものであることを指摘する議論や、高齢者たちが「か細い」つながりを維持しながら、つかず離れずの共同生活を営んでいる様子を明らかにする事例分析、あるいは、精神科医の中井久夫の「世に棲む老人」についての議論に基づいて高齢者たちにとっての密やかな安定領域としての「ニッチ」を見いだすことの重要性を指摘する議論などがあった。「秘密」をかかえた「へだたり」がときに高齢者たちにとっての安らかな居場所 (逃げ場所) を提供している場合もあり、実際の調査報告からも、高齢者たちが思いもよらない居場所 (廃棄された小屋や宗教施設の片隅) に住処を確保している事例が報告され、また、これらのケースが必ずしも住居を失った高齢者という否定的な境遇をあらわすものとは限らないことが確認された。

#### (4) 市場によるケアの供給

市場によるケアの供給についても現状では非常に限定的であることが確認できた。民営の高齢者養護施設はまだ数も少なく、利用者も限定的である。ただし、上記の革命功労者養護施設のような公営施設に私費入居するケース (ショート・ステイも含む) も散見されることが確認された。また、村落部においても、老親のケアを担う家事労働者を雇用するケースがみられるようになってきている。さらには、上述のように、家族・親族内で金銭を介してケアを分担するケースも一般的にみられ、市場や契約に基づくケアの供給の裾野はひろく、また、ひろがりつつあると結論づけることができる。

#### (5) 今後の展望

本研究を通して、ベトナムをフィールドに研究を進める精神医療関係者、看護・介護関係者、労働経済学、比較法学、宗教人類学の専門家などとの研究ネットワークを構築することができた。また、東アジアの高齢者の居住形態に関する共同研究 (日本文化人類学会植松東アジア研究基金「東アジアの高齢者の住まいと居場所-アタッチメントとディタッチメントの両面に注目して」) を並行して実施したことにより、日本を含む東アジア、東南アジア (とくに華人社会) の高齢者ケアに関心をもつ専門家とも連携することができた。

また、最終年度には、ハティン省で追加調査を実施し、キリスト教団体が運営する社会養護施設の視察をおこなうとともに、村落部での家事労働者による独居高齢者のケアについても初歩的な調査を実施することができ、今後の研究の足がかりを構築することができた。

これらの研究成果を基盤としつつ、継続課題として申請した科学研究費補助金基盤研究 (B) 「ベトナムにおける高齢者ケア・レジームに関する総合的地域研究」が採択され、2023年度から4年間の計画でさらに調査研究を進めていくこととなった。この継続課題では、従来の研究課題をより深く追求するとともに、ベトナムの高齢者ケアにおける宗教団体の役割、東洋医学を含む伝統医療と高齢者ケアの制度的・実践的なつながり、在外ベトナム人コミュニティにおける高齢者ケア、高齢者ケア・レジームに関する比較法学、法社会学的研究を進めていく予定である。

また、上記の継続課題と連携するかたちで、京都産業大学「共同研究プロジェクト運営支援」制度にて新規課題「地域をケアする福祉コミュニティの形成と展開に関する国際研究・交流拠点の創出」(2025年度まで) が採択された。このプロジェクトでは、日本、ベトナム、フィリピンにおけるコミュニティとケアの関係についての国際研究交流を促進し、将来的な国際研究拠点の形成に結びつける活動をおこなっていく予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 加藤 敦典	4. 巻 50
2. 論文標題 書評・新刊書紹介 瀬戸裕之・河野泰之編著『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略 避難民・女性・少数民族・投降者からの視点』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東南アジア 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 181-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤敦典、岩井美佐紀、比留間洋一	4. 巻 38
2. 論文標題 ベトナム・ハティン省における高齢者をめぐるケア・レジームの配置 村落地域の高齢者世帯と社会養護施設を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都産業大学論集（社会科学系列）	6. 最初と最後の頁 97-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤 敦典	4. 巻 33
2. 論文標題 ベトナムから来日する女性の看護師・介護福祉士候補者たちのライフコースと家族規範	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較家族史研究	6. 最初と最後の頁 80-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11442/jscfh.33.80	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤 敦典	4. 巻 14
2. 論文標題 「ベトナム村落の独居高齢者をめぐる家族規範の形成と実践の複相性 文化人類学的研究」研究経過報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都産業大学総合学術研究所所報	6. 最初と最後の頁 137-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Iwai, Misaki	4. 巻 30
2. 論文標題 Barriers Faced by Returning Migrant Children in Vietnam: The Case of the Mekong Delta Region	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 positions: asia critique	6. 最初と最後の頁 301-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/10679847-9573357	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井 美佐紀、野上 恵美、土屋 敦子	4. 巻 11
2. 論文標題 ベトナムにおける高齢化とケア ERIAレポートレビューを中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 グローバル・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 211-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩井 美佐紀	4. 巻 9
2. 論文標題 ベトナムに帰還移住する国際離婚母子への法的支援 メコンデルタにおける韓国NGOの活動を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 143-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 PHAN THI MY LOAN, 佐々木 良造, 比留間 洋一, 道上 史絵	4. 巻 6
2. 論文標題 介護福祉士国家試験出現漢字語彙のなかの漢越語に関する基礎調査	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 91-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 比留間 洋一, Le Thi Bich Hop, 柳瀬 志穂	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 ベトナム人留学生を対象とした介護福祉士国家試験対策のアクション・リサーチ母語を用いた補講の可能性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 介護福祉教育	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hiruma, Yoichi, Yukari Amano, Yuko O. Hirano	4. 巻 6
2. 論文標題 Return Migration of Vietnamese Nursing Graduates: Trajectories of the First Batch of EPA Care Workers in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Agents of Care Technology Transfer Trends and Challenges of Migration Care Workers across Borders (ERIA Research Project Report FY2022)	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木 良造, 比留間 洋一	4. 巻 4
2. 論文標題 ベトナム人介護留学生による介護福祉士国家試験問題の読解過程における漢越音利用のケーススタディ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡大学国際連携推進機構紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00028598	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 PHAN THI MY LOAN, 道上 史絵, 比留間 洋一	4. 巻 5
2. 論文標題 ベトナム人中上級日本語学習者の漢字習得における漢越語利用 - 介護福祉士国家試験対策の考案に向けた基礎研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sayuri Minoda, Junko Aono, Satomi Higuchi, Chieko Kitagawa, Yoichi Hiruma, Masatada Aoki, Kiyoko Kusakabe	4. 巻 26
2. 論文標題 Analysis of the Japanese National Nursing Examination completed for the first time by Vietnamese Economic Partnership Agreement Nurse candidate: A true/false comparison with Japanese examinees	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学看護学部紀要	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 比留間 洋一、天野 ゆかり	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 EPA介護福祉士候補者のモチベーションの変化と国家試験の影響 ベトナム人1期生の事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 比留間 洋一、ファム ドウック ムック、天野 ゆかり	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 ベトナムの看護・介護人材の現状と課題 看護協会の立場から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 比留間 洋一、天野 ゆかり	4. 巻 21(7)
2. 論文標題 なぜベトナム介護福祉士はEPAを離れたのか? 来日前の背景から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮沢 千尋	4. 巻 51
2. 論文標題 書評・新刊紹介 北澤直宏著『ベトナムのカオダイ教：新宗教と20世紀の政教関係』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 112 - 116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyazawa, Chihiro	4. 巻 8(3)
2. 論文標題 (Book Review) Familial Properties: Gender, State, and Society in Early Modern Vietnam, 1463-1778, by Nhung Tuyet Tran	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 448-453
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.8.3_448	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件(うち招待講演 6件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 加藤 敦典
2. 発表標題 ベトナムの高齢者ケア・レジーム：比較研究のポイント
3. 学会等名 ワークショップ「東アジアと東南アジアにおける高齢者の居住形態の選択」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤 敦典
2. 発表標題 儒教的祖先祭祀モデルの複相性 現代ベトナム村落における家屋と居住と祭壇
3. 学会等名 比較家族史学会第68回春季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤 敦典
2. 発表標題 コミュニティのジェンダー：ベトナムの多世代相互扶助クラブと女性たち
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kato, Atsufumi
2. 発表標題 Does community care? The Intergenerational Self-Help Clubs in Ha Tinh province, Vietnam
3. 学会等名 13th Next-generation Global Workshop: New Risks and Resilience in Asian Societies and the World. At the Vietnam Academy of Social Sciences, Hanoi, Vietnam (Online) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤 敦典
2. 発表標題 動揺としての祖先祭祀 ベトナム村落部における『家族の祠堂』建設ブームの分析
3. 学会等名 第101回東南アジア学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩井 美佐紀
2. 発表標題 ベトナム・紅河デルタ村落における多様な高齢者の住まい方と幸福 (well-being)
3. 学会等名 ワークショップ「東アジアと東南アジアにおける高齢者の居住形態の選択」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Iwai, Misaki
2. 発表標題 Return-migrated Children and Their Maternal Families in Rural Vietnam
3. 学会等名 Kanda University of International Studies International Workshop: Care and Migration in Asia: Transnational Care Chain in Reproductive Labor (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 比留間 洋一, 道上 史絵
2. 発表標題 看護と介護の漢字語彙学習における漢越語利用の可能性と限界
3. 学会等名 第13回看護と介護の日本語教師研修 (第25回看護と介護の日本語教育研究会例会) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐々木 良造, ファン ティ ミー ロアン, 道上 史絵, 比留間 洋一, 天野 ゆかり
2. 発表標題 ベトナム人介護留学生のための専門漢字語彙学習教材の開発
3. 学会等名 第25回専門日本語教育学会研究討論会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 比留間 洋一, 大野 俊
2. 発表標題 介護分野におけるベトナム人留学生と 技能実習生の現状認識等に関する比較分析 コロナ下での個別・グループ面談調査より
3. 学会等名 日本介護福祉教育学会第28回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 比留間 洋一
2. 発表標題 映画『海辺の彼女たち』をめぐる ベトナム人留学生の反応：授業実践報告を中心に
3. 学会等名 第14回「不可視の隣人たち」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 比留間 洋一
2. 発表標題 ベトナムにおけるコミュニティ・ケアの社会文化的背景：ビンディン省の事例
3. 学会等名 ワークショップ「東アジアと東南アジアにおける高齢者の居住形態の選択」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Phan Thi My Loan, 道上 史絵、比留間 洋一、佐々木 良造、天野 ゆかり
2. 発表標題 介護福祉士国家試験の問題文理解に対する漢越語利用の有効性 ベトナム人技能実習生の事例
3. 学会等名 アジア人材還流学会 ハノイ国際セミナー2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 比留間 洋一
2. 発表標題 ベトナム人介護技能実習生のアンケート調査結果と若干の考察
3. 学会等名 第48回日本保健医療社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 比留間 洋一(発表者), ファン ティ ミー ロアン(以下、共同発表者), 道上 史絵
2. 発表標題 ベトナム人介護福祉士国家試験合格者の読解過程：漢越語非学習者を対象としたケーススタディー
3. 学会等名 日本語教育方法研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 比留間 洋一(発表者), 天野 ゆかり(共同発表者)
2. 発表標題 ベトナム人留学生の介護福祉士国家試験の解答困難点 - 母語を用いた調査の意義
3. 学会等名 第27回日本介護福祉教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 比留間 洋一
2. 発表標題 日本ベトナム経済連携協定の概要・歴史とその背景
3. 学会等名 『外国人看護師』 - アジアの高齢化と看護師の越境移動に関する今後の展望(静岡県立大学国際関係学研究科30周年記念イベント)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 比留間 洋一
2. 発表標題 日本のベトナム人介護士研究に関する現状と課題：EPAから留学生へ
3. 学会等名 東南アジア学会(2021年度オンライン例会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ドアン・ヌー・ガー・ミー（発表者）、グエン・ティ・ラン・フオン（発表者）、比留間 洋一（共同発表者）
2. 発表標題 東嶋・渡辺著『今日からできる高齢者の誤嚥性肺炎予防』ベトナム語版作成を通して見る日越の違い
3. 学会等名 長崎大学・レスパティインドネシア大学共催「海外から見た日本の介護～口腔嚥下ケアを中心に～」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ファン・ティ・ミー・ロアン(発表者)、道上 史絵(以下、共同発表者)、比留間 洋一
2. 発表標題 ベトナム人中上級日本語学習者はいかに漢字・漢字語彙を習得したか 漢越語の利用に関する予備的なインタビュー調査より -
3. 学会等名 日本語教育方法研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 比留間 洋一(発表者)、佐々木 良造(以下、共同発表者)、ファン・ティ・ミー・ロアン、天野 ゆかり
2. 発表標題 ベトナム人介護留学生の読解困難点に関するケーススタディ - 介護福祉士国家試験問題を対象として -
3. 学会等名 日本語教育方法研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 比留間 洋一
2. 発表標題 日本におけるベトナム人介護士受入れの展開とジレンマ
3. 学会等名 ERIA (AHWIN PROJECTS) 「アジアからの看護師、介護士の国際労働移動とキャリア形成」研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiruma, Yoichi
2. 発表標題 The impact of the COVID-19 on the recruitment, training and work of Vietnamese Care Workers coming to Japan
3. 学会等名 2nd Researchers Roundtable of AHWIN-Related ERIA Studies: Recent Findings and a Discussion of the Impact of COVID-19 on the Cross Border Movement of Care Workers (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 天野 ゆかり, 比留間 洋一
2. 発表標題 EPA介護福祉士の国家試験合格率に関する分析ーベトナム人合格者の語りから
3. 学会等名 介護福祉教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 比留間 洋一
2. 発表標題 EPAベトナム人介護職はなぜ帰国したのか
3. 学会等名 国際シンポジウム「日本の介護・アジアのKaigo」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮沢 千尋
2. 発表標題 19世紀から20世紀初頭のベトナムにおける老親扶養に関する規範 - 「二十四孝」説話をめぐって
3. 学会等名 ワークショップ「東アジアと東南アジアにおける高齢者の居住形態の選択」
4. 発表年 2022年

## 〔図書〕 計8件

1. 著者名 小浜 正子、落合 恵美子（編）、加藤 敦典ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 東アジアは「儒教社会」か？ アジア家族の変容』（分担執筆：加藤 敦典「娘たちがつくった祠堂ー現代ベトナム村落における儒教と逸脱」）	
1. 著者名 粟本 英世、村橋 勲、伊東 未来、中川 理、加藤 敦典、賈玉龍、李俊遠、森田 良成、椿原 敦子、岡野 英之、上田 達、木村 自、早川 真悠、藤井 真一、竹村 嘉晃	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 312
3. 書名 かかわりあいの人類学（分担執筆：加藤 敦典「社会人になるためのフィールドワーク：人類学の院生がベトナムの農村でかかわりあいの作法を学んだはなし」）	
1. 著者名 森 明子（編）、岩佐 光弘、岡部 真由美、加賀谷 真梨、加藤 敦典、木村 周平、工藤 由美、沢山 美果子、高橋 絵里香、内藤 直樹、中野 智世、西 真如、浜田 明範、速水 洋子、モハーチ ゲルゲイ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 ケアが生まれる場（分担執筆：加藤 敦典「福祉オリエンタリズムと人類学 ベトナムの村落における障害者ケアに見る「社会」の弱さ」）	
1. 著者名 信田 敏宏（編集委員長）、加藤 敦典ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 東南アジア文化事典（分担執筆：加藤 敦典「親密圏とケア」）	

1. 著者名 岩井 美佐紀(編)、加藤 敦典、比留間 洋一ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 現代ベトナムを知るための63章【第3版】(分担執筆:加藤 敦典「高齢化とケアー助けあいと自立のはざままで」ほか)	

1. 著者名 瀬戸 裕之(編著)、河野 泰之(編著)、岩井 美佐紀、倉島 孝行、佐藤 奈穂、片岡 樹、小島 敬裕、大野 美紀子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略(分担執筆:岩井 美佐紀「総力戦期における北部ベトナムの地域住民の生存戦略 銃後の女性たちの経験と語りから」)	

1. 著者名 平野裕子、米野みちよ、大野俊、比留間洋一、スシアナ・ヌグラハ、コラ・アニョヌエボ、カトリーナ・ナヴァロ、坪田邦夫、平野裕子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学	5. 総ページ数 272
3. 書名 外国人看護師 EPAに基づく受入れは何をもたらしたのか	

1. 著者名 大澤 広晃(編)、高岡 佑介(編)、中村 督、服部 寛、宮原 佳昭、宮沢 千尋、吉田 早悠里	4. 発行年 2020年
2. 出版社 行路社	5. 総ページ数 196
3. 書名 近現代世界における文明化の作用 「交域」の視座から考える(分担執筆:宮沢 千尋「植民地期ベトナム知識人にとっての「文明」と「国学」 ファム・クインと『南風雑誌』を中心に」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮沢 千尋  (Miyazawa Chihiro)  (20319289)	南山大学・人文学部・教授    (33917)	
研究分担者	比留間 洋一  (Hiruma Yoichi)  (30388219)	静岡大学・国際連携推進機構・特任准教授    (13801)	
研究分担者	岩井 美佐紀  (Iwai Misaki)  (80316819)	神田外語大学・外国語学部・教授    (32510)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関